

発行所 三崎港報社
 三崎市三崎4丁目11番5号
 郵便番号 238-9243
 電話(881)3245番(代表)
 購読料 1ヶ月1800円 1部70円
 郵 送 1ヶ月3900円(前納)
 営業広告 1段1センチ 700円
 特別広告 別規定による
 (広告料はすべて前納)

ウォータースライダーで小網代湾に旅立つ 小学生がマダイ稚魚放流

海洋教育の一環に 栽培協・今井さんが海の大切さ訴える

海洋教育の一環に12日小網代湾でマダイの稚魚放流が行われた。毎年、稚魚の放流はNPO法人小網代パール海育隊(略称・小パール隊)とみうら学海洋教育研究所がタイアップしている。午前中は、午後合わせて約150人の児童が参加し、滑り台のよきな「ウォータースライダー」を使い、約2000匹を放流した。

放流された稚魚は体長10センチ前後で、神奈川県栽培漁業協会が今年4月下旬から育てた。小さなバケツに5、6匹ずつ分けられた後、湾内に放流された。ウォータースライダーの上には常に海水が流され、魚が傷つかないよう工夫されている。放流に先立ち、放流講座

が開かれ、同協会専務理事で元県水産技術センター所長の今井さんが講師を務めた。今井さんはマダイが卵から孵化して稚魚になるまでや海上のイケスに移されて放流するまでをわかりやすく解説。標識をつけたマダイが20年後に大磯で捕獲されたケースがあり、養殖されたマダイが最低でも20歳に達していたことがわかったなどを紹介した。また、放流は毎年神奈川県から静岡県にかけて行われ、70万匹から80万匹が放流されていることにもふれた。

また、今井さんは背後の小網代の森と小網代湾が密接に繋がっているとし、小魚の稚魚はアマモやカシメをゆりかごに成長する。海



バケツの中で元気に泳ぐマダイの稚魚

水温が上昇し、アマモやカシメが枯れてしまい、海底が砂漠化している。海藻の中には花が咲き、実をつけて増える種類もある。回復させるには時間がかかるが、再生は絶対必要などよびかけた。

放流は「密」をさげられたら一度に5人前後が滑り台の横に立ち、小パール隊員の合図で放流した。参加した高梨裕喜さん(岬陽小4年生)は「元気いっぱい滑っていた。途中で落ちそうになり、可愛かった」、同級生の池田梨花(りんかさ

水温が上昇し、アマモやカシメが枯れてしまい、海底が砂漠化している。海藻の中には花が咲き、実をつけて増える種類もある。回復させるには時間がかかるが、再生は絶対必要などよびかけた。

放流は「密」をさげられたら一度に5人前後が滑り台の横に立ち、小パール隊員の合図で放流した。参加した高梨裕喜さん(岬陽小4年生)は「元気いっぱい滑っていた。途中で落ちそうになり、可愛かった」、同級生の池田梨花(りんかさ

水温が上昇し、アマモやカシメが枯れてしまい、海底が砂漠化している。海藻の中には花が咲き、実をつけて増える種類もある。回復させるには時間がかかるが、再生は絶対必要などよびかけた。

放流は「密」をさげられたら一度に5人前後が滑り台の横に立ち、小パール隊員の合図で放流した。参加した高梨裕喜さん(岬陽小4年生)は「元気いっぱい滑っていた。途中で落ちそうになり、可愛かった」、同級生の池田梨花(りんかさ



「大きくなれ」と声をかけて放流する児童たち

る機会を提供して「みうら子」の成長をサポートしている。